詩

大阿蘇

三好達治

雨の中に馬がたっている
一頭二頭子馬をまじえた馬の群れが　雨の中にたっている
雨は蕭々と降っている
馬は草をたべている
尻尾も背中も鬣も　ぐっしょりと濡れそぼって
彼らは草をたべている
草をたべている
あるものはまた草もたべずに　きょとんとしてうなじを垂れてたっている
雨は降っている　蕭々と降っている
山は煙をあげている
中岳の頂から　うすら黄いろい　重っ苦しい噴煙が濛々とあがっている
空いちめんの雨雲と
やがてそれはけじめもなしにつづいている
馬は草をたべている
草千里浜のとある丘の
雨に洗われた青草を　彼らはいっしんにたべている
たべている
彼らはそこにみんな静かにたっている
ぐっしょりと雨に濡れて　いつまでもひとつところに　彼らは静かに集まっている
もしも百年が　この一瞬の間にたったとしても　何の不思議もないだろう
雨が降っている　雨が降っている
雨は蕭々と降っている

阿蘇山

阿蘇山は熊本県北東部に位置する火山で、高岳・中岳などの山々から構成される。草千里ヶ浜（草千里浜）は阿蘇山中の草原で、東に噴煙をあげる中岳を見ることができる。

確認テスト　詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 詩を、使われている言葉や形式から分類したときに、「大阿蘇」に当てはまるものを次から二つ選びなさい。

ア　文語詩　　イ　口語詩
ウ　定型詩　　エ　自由詩　　オ　散文詩

〔　　・　　〕

(2) 「蕭々」の意味を選びなさい。

ア　とらえどころがない様子。　　イ　ものさびしい様子。
ウ　光が明るい様子。　　エ　荒れ狂う様子。

〔　　〕

(3) 「濛々」の意味を選びなさい。

ア　温度が高い様子。　　イ　静かな様子。
ウ　あらあらしい様子。　　エ　一面に立ちこめる様子。

〔　　〕

(4) 「大阿蘇」で用いられている表現技法として、適当なものを選びなさい。

ア　直喩　　イ　体言止め　　ウ　反復

〔　　〕

(5) 「大阿蘇」では、阿蘇の風景を描いた箇所で行末に同じ言葉が繰り返されている。その行末の三字を書きぬきなさい。

(6) 「大阿蘇」で、阿蘇の風景の中で感じた作者の思いが描かれている行を探し、最初の三字を答えなさい。